

第2回あべのタスカルにおける防災体験学習プログラム 及び施設体験価値向上に関する検討会議 (議事録)

- ・日時：令和8年8月10日（月） 10時から12時
- ・場所：大阪市立阿倍野防災センター「あべのタスカル」防災体験学習エリア内
- ・出席者：碓田 智子 氏、池内 淳子 氏、沖 祐治 氏、事務局（5名）、指定管理者（1名）

【次第1 開会】

● 事務局

お待たせいたしました。

ただいまから第2回あべのタスカルにおける防災体験学習プログラム及び施設体験価値向上に関する検討会議を開催させていただきます。各メンバーの皆様におかれましては、本日もお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。本日進行役を務めさせていただきます消防局予防課地域防災担当の小柳でございます。よろしくお願いいたします。まず初めに消防局予防課地域担当課長の谷よりごあいさつ申し上げます。

【次第2 大阪市消防局地域担当課長あいさつ】

● 谷課長

あらためまして、皆様、おはようございます。本日もお忙しい中「あべのタスカルにおける防災体験学習プログラム及び施設体験価値向上に関する検討会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は本会議の運営を担当しております消防局予防課地域担当課長の谷でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

皆様ご存知の通り、先月末に熊本で震度7の地震が発生し、大きな被害が出ております。近い将来発生が懸念される南海トラフ巨大地震をはじめ、豪雨台風など多様な災害が激甚化・頻発化する中で、市民の皆様の防災意識の向上と地域防災力の強化がこれまで以上に重要となっております。この大阪市立阿倍野防災センターが市民の皆様にとって防災を学び体験し、行動につなげられる学習施設としてその役割を果たせるよう、引き続き体験学習プログラムの内容と体験価値の向上に努めてまいります。

本日は専門知識をお持ちの皆様から、貴重なご意見やご提案をいただき、限られた時間ではございますが、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【次第3 メンバー及び事務局紹介】

● 事務局

ありがとうございました。続きまして、メンバーの皆様のご紹介をさせていただきます。なお順不同でご紹介させていただきますので、よろしくお願いいたします。

大阪教育大学教育学部教育協働学科教授の碓田 智子様でございます。

摂南大学理工学部建築学科教授の池内 淳子様でございます。

公認会計士の沖 祐治様でございます。

なお、大阪公立大学名誉教授の三田村様におかれましては本日欠席となります。

続きましてオーブザーバーの阿倍野防災センター長、藤岡様でございます。

事務局の紹介をさせていただきます。

消防局地域担当課長の谷でございます。

地域担当副課長の 長田でございます。

地域防災担当の 吉富でございます。

地域防災担当の 神吉でございます。

以上よろしくお願いいたします。

それでは、お手元の資料の確認をさせていただきます。

【資料1】あべのタスカル検討会議開催要綱

【資料2】メンバー名簿

【資料3】あべのタスカル検討会議資料

以上でございますが、不足しているものはございませんか？

本会議は大阪市が定める「審議会等の設置及び運営に関する指針」に基づいて公開会議とさせていただいております。会議の議事については、大阪市ホームページに掲載させていただきます。また、議事録作成のため会議の内容を録音させていただきますのでご了承いただきますようお願い申し上げます。

阿倍野防災センターの運営検討については平成16年の開館から名誉館長制度により室崎氏から意見をいただいていたましたが、平成28年に大阪市議会の議員から幅広い層の方からアドバイスをもらうべきではないかとの意見があったことから4名の有識者によるアドバイザー会議を令和2年から令和5年にかけて開催しました。コロナ禍も経て会議目的であったあべのタスカルの魅力を向上し多くの方に防災体験を実施していただく運営を検討していきました。

令和7年度からは新しく指定管理者と5年契約の開始となり、あべのタスカルの防災体験をより価値あるものにし、より市民の防災知識・技術を向上させていくという目的でこのように「あべのタスカル検討会議」を開催させていただくに至った次第でございます。

なお、3年にわたる会議になりますので、令和10年9月で一旦、この名称での会議を終えることとなっております。今回はその第2回目となっております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは議題懇談に入ります前にまず、昨年度の会議結果とその後の取組み、それから次回指定管理者選定までのロードマップについて事務局から説明させていただきます。

【次第4 昨年度の会議結果と取組み／指定管理者の更新業務（ロードマップ）】

● 事務局

2ページ目をご覧ください。

昨年度の会議結果として4項目あげさせていただいております。まずコース体験は今まで、アテンドという形で案内をしておりましたが、より体験者のレベルに合わせた、具体的な指導ができるように、コーチングという形で行っております。

コーチングの内容は随時、検討しており、昨年から感震ブレイカーの設置促進を勧めているため、被災後の行動について学ぶ「減災を学ぶ」のコーナーで、避難時にブレイカーを落とすことに加え、感震ブレイカーの紹介をさせていただいております。また、消火体験コーナーでは、中学生が消火器の使用方法を体験したことによって、実際の火事で初期消火に成功した奏功事案を紹介して、初期消火の重要性を伝えてもらうようにしております。

コース体験の終了後には、避難器具を昨年度から常設し、希望者のみに避難梯子の展示と実際に救助袋の降下体験をしていただいております。

2つ目の有料化の検討については、施設全体を有料化とするのか、また、基本は無料で一部の高度な体験を有料化にするということも検討しております。自主事業についてはグッズの作成や有料イベントの実施に取り組んでおり、指定管理者選定5年間の中の重点的なポイントと位置付けていますので、議題3でご意見をいただければと考えております。

3つ目ですが、現在起震装置が更新中であり、更新設置工事に伴って今回の会議で展示内容を見直す予定でしたが、調整により通常のコース体験が可能になりましたので、議題からは省略しています。

4つ目の阿倍野防災センター施設の移転については、防災センターを含めた施設の合理化に関する検討の必要性があり、前回の会議でご意見をいただきました。利便性が良いことや災害対応施設と一般利用の施設は分離すべきというご意見をいただきました。この点について、もう少し踏み込んだ意見がありましたら、ご意見をいただければと思っていますところでございます。

続きまして、3ページ目に次回指定管理者選定までのロードマップを作成しております。

次回指定管理選定は令和11年となっています。今年度は課題の抽出・整理を行ってまいりますが、その中で「展示内容の更新」が1つ目、2つ目は「入館料の有料化」、3つ目は「自主事業の拡大」を今日の議題としてあげさせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

● 事務局

ここまでの内容で何か質問はございませんか。

それでは、議題懇談に入りますが、第1回目の会議におきまして、あべのタスカル検討会議開催要綱第4条の規定に基づき、座長に互選されました三田村様におかれましては、本日欠席となっておりますので、本会議におきましては、同じく第1回目で座長から座長代理に指名いただいております碓田様に座長を務めていただきたいと思います。これから先は座長に議事の進行をお願いいたします。

碓田先生よろしくお願いいたします。

● 座長

本日、三田村先生に代わり、座長を務めさせていただきます碓田でございます。

不慣れですけれども、どうぞよろしくお願いいたします。それでは議題1の展示更新につきまして、審議に入りますので、事務局よりご説明をお願いいたします。

【次第5 議題懇談（1）展示更新について】

● 事務局

それでは説明させていただきます。

4ページ目をご覧ください。平成31年に防災体験をリニューアルして以降、8年が経っております。機器も悪くなっている部分があり、更新のタイミングが近づいております。また、展示内容を固定化してしまうと来館者が減少していく可能性もあり、展示内容の更新を考える時期にきていると考えております。

体験者からアンケートを取っており、コース体験で評価が低かったコーナーが地震発災後の行動を学ぶ「減災を学ぶ」と家具等の下敷きになった人の救助方法を学ぶ「救助を学ぶ」となっています。

全体アンケート、コース体験別アンケート、年代別の集計でも同様の結果になっています。

評価が低い「減災を学ぶ」のコーナーは、大きな部屋に椅子とテーブルがあり、キッチンを模した部屋になっています。地震発生後の行動として、まずはケガしないよう自分の身を守る、火元の確認というところを考えてくださいと伝えています。

地震発生直後の行動として必要な内容になりますが、平成31年から変更がなく、石油ストーブやガスコンロなどが現状にそぐわない部分も少し出てきています。緊急地震速報発信時に、実際に避難行動を取ることも一つ良い方法だと考えますが、1コース最大30名が収容されるスペースになりますので、全ての人が体験できなくなることも考えられます。

また、「減災を学ぶ」のコーナーの最後に感震ブレイカーの紹介をしていますが、実機ではなく、口頭のみでの説明であるため、普及促進の観点から実際の機器を使用することも有効であると考えます。

次に「救助を学ぶ」のコーナーですが、こちらは大阪市の可搬式ポンプ収納庫に入ってる資機材を使って、下敷きになった要救助者の救出方法を学べるようになっています。

バールで間隙を広げ、ジャッキアップの機械を差し込むというものですが、安全上、固定をしたままバールの操作やジャッキアップを行っており、実際の人が入って救出するなど少しレベルを上げていってもいいのかなと思っています。また、実際に震災が起こると、重量物を除去して救出するという形になるため、ノコギリで破壊して重量物を除去するような訓練もいいのかなと思っています。

最後に、「備えを学ぶ」のコーナーでは、救助袋の体験や避難はしごの展示もしていただいておりますが、真ん中に大きなスペースが空いているような状態になっています。壁側の方では119番通報の体験や災害伝言ダイヤルの体験ができますので、真ん中の空間の活用方法についてご意見をいただければと思います。

事務局からの説明は以上となります。

● 座長

事務局からの説明内容について、ご意見ございますでしょうか。

展示内容の詳細がわかりかねる部分もありますので、後ほど現地確認したいと思います。

● 池内 氏

P4 のアンケート結果にある避難はどういったコーナーでしょうか。全体アンケートでは低いですが、コース体験では逆転している状況にあります。

● 事務局

揺れが収まった寝室の状況を再現したコーナーになっており、B コース体験では、車いすを使用した避難支援も学べるようになっていきます。A コースはその紹介のみ行っています。現地確認で実際の展示内容をご確認いただけます。

《「救助を学ぶ」・「避難支援を学ぶ」のコーナーへ移動し確認》

● 池内 氏

展示内容がよくわかりました。アンケート評価が低いものについては、展示内容が悪いわけではなく、五感で感じ取れる刺激の部分にあると考えます。実課題に直面している人には、マッチするが一般的には、刺激が不足していると感じられる。評価の低い①②③については、ソフトの問題であると思います。学校などでは、避難器具や屋内消火栓などを使用して普段訓練し難い状況にあるため、防災センターで体験できる環境をプログラムとして整備することも一つの方法。

● 沖 氏

防災センターは、一通りの防災体験ができるため防災を学ぶ入口としては非常に良い。学校にあるような設備を組み合わせると体験できるようになれば、さらに実災害につながる学びができると考えます。

● 池内 氏

「減災について学ぶ」のところは、実際にキッチンでいた時に困ること（てんぷら火災）や家具を増やしていくことでリアリティがでる。「救助を学ぶ」は、ジャッキやバールの使用方法を知らない人も多くいるため固定されたものではなく手にもって器具を操作した方が良い。「備えを学ぶ」のところは、防災ゲームなど縁日のような体験がマッチするような感じがします。

また、在宅避難時のトイレ体験や販売されている防災グッズをどのシーンで使用するのかを展示することで実災害への備えとしてよりリアリティを感じ取れるものになる。もう少しレベルの高い要素をとり入れていくことでも良いのではと感じます。

【次第5 議題懇談（2）指定管理者が行う自主事業の拡大について】

● 座長

続きまして、議題2の指定管理者が行う自主事業の拡大について、事務局から説明をお願いします。

● 事務局

第1回目に引き続き、ご意見をいただきたいものになります。

（P9）指定管理者にとって、利益を得ることは、企業意欲であり、それを実現させることで施設価値も同時にあがるものと考えます。

阿倍野防災センターでも昨年から新たな取組として講師を招いた防災研修の一環として「サバイバル鬼ごっこ」を独自に行い、ガチャガチャ製品やたすける関連グッズについても、社会的な流行にあわせたグッズの制作に取り組んでいます。

拡大していくには、新たな視点からより良いものを製作していく必要があります。

（P10）過去の来館者数及び自主事業（防災用品販売）収入実績の推移を表したグラフになります。コロナ禍以降、来館者数は右から上がりで増加しており、それに比例して自主事業での収入も増加している。

令和7年度の来館者数は、設備改修のため研修室を2ヶ月間閉鎖していたことや起震機更新による休止の影響により、減少したものと推測されますが、自主事業収入は、過去最高となっています。

このグラフからは来館者数の増加と収入はある程度比例するということが読み取れます。

月別にみると、夏季に比べ冬季に売上が低いことは、来館者数に比例しているものと考えられます。今後の展開として、冬季に来館者数を増やすイベント等を実施することも検討が必要であると考えられます。

（P11）グッズカテゴリー別の割合がこちらになります。

（P12）自主事業の課題としては、利益の高い商品の開発、利益が低い商品への対応、客単価の増加、リピーターの増加などがあります。

また、オリジナル商品の開発というところで、これまでのたすける関連グッズの導入経過を記載しています。今後のキャラクターの認知度向上による効果も期待。

その他、利益配分率の考え方についても今後検討していく必要があると考えています。

（P13）最後に収益拡大の方策ということで例示しているところです。

消防参加イベントに帯同し、阿倍野防災センターの広報を行うとともに防災グッズ等を販売することも認知度向上につながるものと考えます。

事務局からの説明は以上となります。

● 座長

自主事業の拡大について、今後の取り組みについてご意見はございますか。

● 池内 氏

自主事業を拡大していくことは良いこと。目的として、来館を目的とするのであれば出張販売ではなく WEB 販売で十分。得た利益は他の施設への視察に使用できるなど使用用途に制限がなく、また利益配分率についても、制限がない方が良いものと考えます。ただし、単に利益を求めるのではなく、防災目的に沿った、利点を生かした販売方法がこのセンターに見合うように感じます。

● 沖 氏

一般的に利益率 5 % を超える会社は、企業努力によりある程度の利益が出ているものと考えられますので、それに向けて事業に取り組むことは良いものと考えます。

販売については、事業趣旨から防災用品を促進し、家庭で備蓄してもらえようようなサイクルを作ることが望ましいと思います。

また、イベントなどの外部広報活動については、消防局のイベントだけでなく、大阪市が参画しているイベントに対しても積極的に行っていく必要があるものと考えます。

● 座長

「防災サバイバル鬼ごっこ」には、どれくらいの方が参加されているのでしょうか。

● 藤岡センター長

今年度 5 月に実施した際には、1 回 30 名ほどを定員として、3 回実施し、概ね 100 名の方に参加いただきました。

● 座長

参加者も多く、有意義な研修ですので、来館者数の少ない時期にあわせてこういった研修などを企画し実施していただければ相乗効果が得られるものと思います。

【次第 5 議題懇談（3）施設の有料化について】

● 座長

議題 3 の施設の有料化について、事務局から説明をお願いします。

● 事務局

(P16) 現在、人件費や物価の高騰により施設の維持が年々コスト的に厳しくなっている状況であります。

そこで施設の有料化について検討することとの意見が出ております。スケジュールとしては、現在の指定期間（令和7年4月1日～令和12年3月31日）で変更することは、条例の改正を必要とするため、指定管理者との契約上も難しくありますが、次期指定管理選定に向けて、施設を持続的に運営していくため検討していく必要があると考えています。

(P17) 目的ですが、施設の維持管理となります。料金設定についてはいろいろな案がありますが、体験エリアでの設定、利用者の市内と市外での設定、又は減免制度や年齢別によって、無料と区別をする等もあると思います。有料にする場合の影響としては、利用者が減少する恐れがある、事前に市民への説明や意見の聴取が必要になってくると考えます。

(P18) 現在の稼働率については8月9月が高くなってしまして冬季や4月が低くなっています。コストは年々増加しておりまして。人件費・物件費ともに増加しています。令和7年度に人件費が減少していますが、指定管理者が再編されたことにより、これまで人件費で計上されていたものが物件費として計上されたことによるもので、人に係る経費は増加しております。

(P19) 来館者については一般の利用が多くなっており、その中の約1万人が外国人の来館となっています。市内在住と市外からの来館者比率はおおよそ半分となっています。

(P20) 周辺の類似施設は人と未来防災センターや和歌山の稲村の火の館があり入館料を設定していますが災害の伝承施設であり、自治体が運営している防災体験施設で無料の施設はありませんでした。

事務局からの説明は以上となります。

● 座長

人件費や物価高騰により維持管理が難しくなっていくことも考えられます。この点につきご意見をいただければと思います。

● 池内 氏

防災施設で有料化している施設は、被災地であり、今後につなぐための体験伝承施設として維持していく必要があるものであるが、大阪市においてはそれがなじまないように感じます。大阪市の財政上の理由からでは、理解が得られない部分があると思います。

ただ、受益者負担の観点から大阪市の施設利用料を市外の方（市内在勤・在学を除く）に負担してもらうという考え方はあるのではないかと考えます。

● 沖 氏

市の施設に係る経費を税金から支出するのか市民からもらうのかという問題があり、有料化した場合を考えると施設利用者から得るアンケートもよりシビアなものになってくると思います。どの程度から有料化をスタートするのかはあるが、率直な意見が得られる利点はあると思います。

市内の方は税金を払っていますので、受益者負担から市外の方からになるのではないのでしょうか。

● 座長

来館者に外国人の方が1万人ほどおられますが、在住者の方なのか訪日外国人（インバウンド）の方なのかいずれでしょうか。

● 藤岡センター長

今多いのが、技能実習生の方で研修に来られることが多いです。

● 池内 氏

小中学校の防災プログラムや企業の防災学習支援を進めていくことが重要だと考えており、そういったところは無料として、遊びに来た市外の方は有料にするような差別化を図っていくことも良いと考えます。

【次第5 議題懇談（4）阿倍野防災センターの更新計画について】

● 座長

それでは、最後の議題について事務局から説明をお願いします。

● 事務局

令和7年度に「あべのタスカルを含めた消防局所管施設全体について、施設規模や機能分担を含めて将来需要を見越した計画を立てること」という付帯決議を受け、阿倍野防災センターについても検討の必要性がうたわれております。

この件について、昨年は「利便性や災害対応、コストも考慮し安易に移転すべきではない」とのご意見をいただいておりますが、異なる視点からご意見をお伺いできればと思います。

● 座長

昨年のご意見をいただいておりますが、加えてご意見はございますでしょうか。

● 池内 氏

激甚災害時の防災センターの活用方法はどのようになっていますか。

● 事務局

このエリアは、ボランティア等の受付、応援物資の一時保管場所になっています。

● 池内 氏

激甚災害時には、消防局がこのエリアを使用することになり、それが正しい活用方法ではないかと思っています。ボランティアの受付がこのエリアで現実的に可能であるかということもありますし、緊急消防援助隊の受援体制を踏まえると消防機能として必要な場所であると考えます。

移転更新の検討をするのであれば、立地を生かせる場所として、有事の際のあり方をもう一度整理しておく必要がある。阿倍野防災センターも市民の受け入れ施設ではなく、消防が拠点機能を果たせる場所として位置付けておくべきであると思います。

コストや利便性よりも災害対応時の有用性が重要。

● 座長

更新計画については、コストだけに着目するのではなく、大きな視点から考えていく必要性もあると思います。

● 沖 氏

防災センター自体も古い施設ではありませんので、素朴に移転を考える必要性はあまり感じられないところです。中心に位置していることも大きい要素であると思います。

● 座長

以上で本日の議題審議は終了とします。

本日は、様々な意見をいただきありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。

● 事務局

本日は、貴重なご意見をいただきありがとうございました。

今回、委員の皆様からいただいたご意見をもとに、指定管理者とも協議調整のうえ、あべのタスカルの運営をより良いものへとしていきたいと思っています。

これを持ちまして、第2回あべのタスカル検討会議を閉会させていただきます。

皆様ありがとうございました。